

特 集

現代社会学部現代社会学科における「キャリア形成」実践報告Ⅰ
—2021、2022年度の低学年のキャリア教育—野崎 瑞樹^{※1}・山尾 貴則^{※1}・森田慎二郎^{※1}・崔 博憲^{※1}
犬塚 剛^{※1} 森田 清美^{※1}・黒沢 麻美^{※1}・田中 茜^{※1}

【本学科のキャリア形成科目】

現代社会学部現代社会学科には、1年次～4年次まで「キャリア形成」科目が配置され、1、2年次は必修になっている（表1）。低学年のキャリア形成を「社会を知る」「働くことを知る」機会として位置づけ、自ら探し、調べ、選ぶ力を身に付け、社会人基礎力を養い、卒業後の進路選択につなげることを目的としている。低学年からの必修とすることで、職業選択だけでなく、大学における専門領域の学びにおいても主体的に取り組めるよう配置している。現代社会学科のキャリア教育は、2022年度で1、2年次のキャリア形成科目を一通り終了し、2023年度からは本格的な就職活動に関わる3、4年次を対象とする科目がスタートする。本稿では、学部設置から2年間のキャリア形成科目を振り返り報告する。

本学科にはキャリア教育を専門とする教員は不在であるため、2021年度は本学の前キャリアサポートセンター長の山吹淳氏を非常勤講師に

迎え、開講以前より学科就職委員会メンバーと内容や担当者について打ち合わせを行った。2021年度は山吹氏と学科就職委員会メンバー7名が授業運営やレポート添削を担当し、2022年度は2学年分を学科就職委員会メンバー8名で担当した。2022年度のキャリア形成ⅠとⅡ（1年前後期）の内容は、2021年度を踏まえて一部を入れ替え、授業の流れを調整した。以下では2022年度の内容を記述した。

【キャリア形成Ⅰ】1年前期 必修

①社会を知る（働くこと、情報、法律等）、②コミュニケーション、③資格・職種等について、講話やワークを組み合わせて構成している。①社会を知ることとは、経営者や卒業生による講話から「働くこと」と「学ぶこと」のつながりを意識し、自ら調べようとする際の情報源、調べ方の概要を理解した。②コミュニケーションでは、大学を含む社会で学ぶ際に必要とされるスキルの基本を学んだ。自分が発信している情報、他者から受ける情報、情報を得る際の注意点などを理解した。③資格・職種等では、社会における多様な選択肢を概観し、大学生活において自ら挑戦する可能性について考察した。

学生は各回メモを取りながら講話を聴き、①講話内容の要約、②印象的だった点に関する考察をレポートにまとめた。レポートは指定用紙やGoogleフォームで提出させ、次週までに科

表1 キャリア形成科目

科目名	配当年次	必修	単位数
キャリア形成Ⅰ	1年前期	必修	2単位
キャリア形成Ⅱ	1年後期	必修	2単位
キャリア形成Ⅲ	2年前期	必修	2単位
キャリア形成Ⅳ	2年後期	必修	2単位
キャリア形成Ⅴ	3年通年	選択	2単位
キャリア形成Ⅵ	4年通年	選択	2単位

※1 東北文化学園大学現代社会学部現代社会学科

目担当教員（主に学科就職委員）が10名程度を分担して添削した。添削基準は、①課題に沿っている（10点）、②理解できている（10点）、③重要な部分とその理由が書ける（10点）の3点で、各回30点満点で評価し、コメントを添えて返却した。

2021年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、オンライン授業でスタートしたが、2022年度は対面形式で開始した。講師との調整によってプログラムは前後したものの、概ね実施できた。出席はレポートの提出をもってカウントすること、レポート評価が総合的な成績評価につながることで、要約力が専門教育における表現力（レポート作成等）に影響することなどをたびたび説明し、理解を促進した。シラバスでは、課題への取り組み（出席・レポート提出）、課題の出来栄（レポート内容）等で評価するこ

とを記述しており、評価基準が明確になるよう担当教員間で議論・調整の上、評価を確定した。

学生の授業評価は、2021年度の総合評価で平均4.45、課題への取り組みと授業スピード・量で大学平均を上回った。自由記述では「大学生のうちにやるべきことを理解できた」「自分のためになる講話だった」など、主体的学びに役立つ内容と捉えられていた。2022年度の総合評価も平均4.45で、ほとんどの項目で大学平均を上回った。

また学科では初年次教育としてのキャリア形成Ⅰ（1年前期）について、学生に対してGoogle フォームを利用した独自調査を行った。「各回のレポート作成を通じて、要約力や自分に当てはめて考える力が付いたと思うか」、「各回のレポート作成にじっくりと丁寧に取り組んだか」「各回のレポート添削とコメントは役

表2 キャリア形成Ⅰ 授業内容

2022年度キャリア形成Ⅰ（必修）授業計画	
1 オリエンテーション	本講義の狙い、キャリアデザイン・ライフプランと進路選択について
2 メンタルヘルス講話	メンタルヘルス講話
3 社会を知る情報源：新聞・インターネット	新聞・インターネットの情報収集のノウハウを身に付ける
4 学ぶこと・働くことの意味とつながり	社長の話を聞く
5 コミュニケーション	インタビューする力、質問力
6 コミュニケーション	電話、訪問、面接のコミュニケーション
7 労働法について	ワークルールを知り、アルバイト等を調べる
8 将来に対する準備 ① 一般資格	資格の意味、種類、取得方法を紹介（MOS、TOEICなど）
9 教員の話进行こう	現代社会学部の教員の専門、関連する仕事、働くことについての考えを聞く
10 教員の話进行こう	現代社会学部の教員の専門、関連する仕事、働くことについての考えを聞く
11 将来に対する準備 ② 公務員	種類（国家・地方）、仕事、難易度、試験対策について
12 将来に対する準備 ③ 一般企業	多様な業界、就活サポートとは
13 基礎演習Ⅰ発表会	
14 ふりかえり	ふりかえり

印象にのこっている内容はどれですか。当てはまるものをすべて選択してください。

76 件の回答

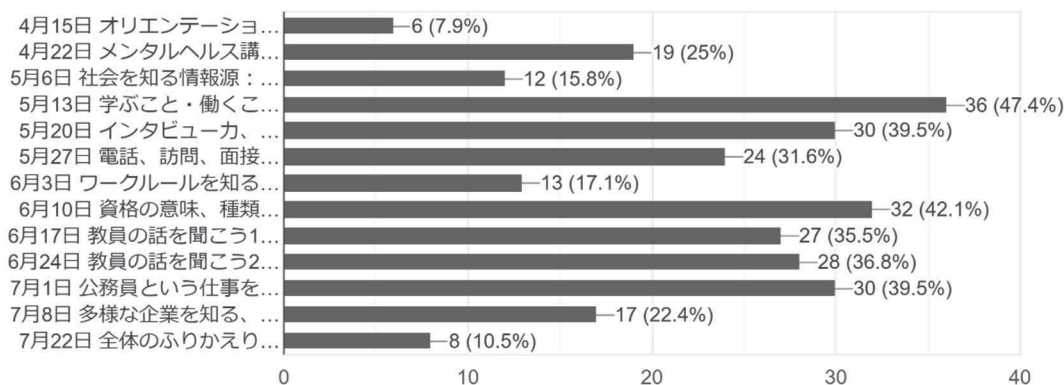


図1 キャリア形成Ⅰ（2022）印象に残っている内容

立ったか」「外部講師の講演はキャリアを考える上で有益だったか」について5件法でたずねた。2022年度の回答では、すべての項目で「とても当てはまる」「まあ当てはまる」を合わせて80%を超え、特に後半2問は「とても当てはまる」だけで6割以上で、学生にとって有益と感じられる授業になったと考えられる。2022年度のキャリア形成Ⅰで印象に残っている授業内容を複数回答でたずねたところ、「学ぶこと・働くことの意味とつながり」（鍋島氏の講演）が最も多く（47.4%）、「一般資格」（42.1%）や「公務員」（39.5%）の紹介も多く選択された。

【キャリア形成Ⅱ】1年後期 必修

①自己分析（適性検査、自己紹介文）、②プレインターンシップ（業界研究）を主な内容としている。①自己分析では、株式会社リクルートのSPI性格診断を体験し、活用する方法について講義を受け、各自考察した。また、キャリアコンサルタントでライターの関川一雄氏に、自己分析、自己紹介文作成・添削、解説を依頼し、自ら振り返り、理解を深め、表現する方法を学んだ。②プレインターンシップでは、グループごとに業界を決定し協力して調べ発表した。スタートアップの講話と発表会の講評に、アフターリクルーティング株式会社の池谷昌之氏をお迎えし、1年次のこの時期に行う業界研究の意味、調べる方法・視点について学んだ。

関川一雄氏による自己紹介文の作成では、自

ら行う自己分析の重要性を学んだ上での取り組みを重視して進めた。自己を振り返ることは、過去の失敗等に注目しがちで辛い作業になること、家族等に言われて思い込んでいたことを自分で考え直す機会になることなど、学生の立場に寄り添った解説により、理解を深めた。自己紹介文は400字の原稿用紙を用いて、宿題として時間制限を設けず、授業の数日後に提出させた。丁寧な添削により、自身の苦手部分や間違いに気づき、大学生活において取り組むことを理解した。

プレインターンシップは、PC室や図書館を利用して協力して調べる学習を主とした。これまでの生活において触れたことのない業界も多く、調べるためのキーワードがわからず取り掛かりに苦慮する場面もあった。グループワークに慣れておらず、協力し合うことが難しいグループもあった。また池谷昌之氏の講評で、取得した情報の根拠などに注目することで、情報の正しさを判断することができる等の助言をいただき、理解を深めた。これらの学びは今後の大学における専門教育を学ぶスキルにも通じ、初年次教育としても重要な役割を果たしていると考えられる。

キャリア形成Ⅱの評価は、キャリア形成Ⅰと同様のレポート（計5回）と、作文等の提出、プレインターンシップへの取り組み、総合レポートによって行った。

学生による授業評価では、2021年度の総合評価の平均は4.27と大学平均を下回り、特に質問

表3 キャリア形成Ⅱ 授業内容

2022年度キャリア形成Ⅱ（必修）授業計画		
1	オリエンテーション	本講義のねらい、大学における学びと進路
2	OBOGメッセージ（卒業生講演会）	学生時代と現職との関連について
3	ライフデザイン・自己分析と作文	過去・現在・未来の自分をつなぐ
5	自分を知る①適性検査の種類、狙い、テスト	適性検査の意味を確認し、その活かし方を学習する
6	自分を知る②適性検査の結果確認	適性検査結果を確認し、その活かし方を学習する
4	ライフデザイン・自己分析と作文	自己分析と作文表現
7	プレインターンシップのオリエンテーション	プレインターンシップの説明・グループ分けなど
8	調べる力 プレインターンシップ	知りたいことを明確にして、調べる方法を決める
9	聞く力・取材 プレインターンシップ	聞く力を身につけ、コミュニケーションを促進する
10	まとめる力 プレインターンシップ	情報をまとめ、発表資料を作る
11	発表会 プレインターンシップ	プレゼンテーションの実施
12	自己分析をエントリーシートへつなげる	エントリーシートに書ける自分としての自己分析データベースの作成
13	まとめ	まとめ
14	最終課題作成	最終課題作成

したか、質問しやすい環境だったかという点において低かった。しかし、自由記述では「将来に役立つことを学べた」「実践的な観点で面白かった」など成果を実感しているコメントが見られた。

これらのプログラムに加えて、2022年度はOBメッセージとして、社会福祉法人女川町社会福祉協議会の久保侑大氏（OB入社3年目）の講話を実施した。OBの講話は本学で学び、卒業した後の職業観として具体的にイメージする材料となる。現代社会学科としての卒業生はまだいないが、前身の保健福祉学科の卒業生が学生時代をどのように過ごし、職業選択をしたのか、卒業生の協力を得ながら、「社会を知る」「働くことを知る」機会を増やしていきたいと考える。

【キャリア形成Ⅲ】2年前期 必修

夏休み（8月～9月）に2日以上インターンシップ（キャリア教育としての学外研修であるが、以後インターンシップと表記する）に参加することを目指したプログラムである。事前研修として、①概要・意義、②社会人スキル（身だしなみ、コミュニケーション）、③企業研究と申込み手続きを行った。インターンシップ先は、実施前年度の2021年度より、キャリアサポートセンターに開拓と事務手続きおよび連絡調整を全面的に依頼した。④1か所1名～6名で

インターンシップを体験した。⑤事後研修として、後期のキャリア形成Ⅳの授業時間4回分を使い、振り返り、報告書の作成、報告会を行った。報告会までをキャリア形成Ⅲとして成績評価した。

①概要・意義は、新潟大学よりご提供いただいた「インターンシップ（産学連携教育）入門編」を参考に行った。社会人基礎力の自己評価、自己PR作成等、ワークを用いてインターンシップへの意識づけを行った。②身だしなみについてはスーツ着用で参加し、株式会社コナカによる講話とセルフチェックをした。また言葉遣いやメール等のマナーについてハローワークの協力を得て講話・ワークを行った。③企業研究と申込み手続きは、インターンシップ先および実習時期の調整状況により、個別対応した。各学生を学科就職委員が分担し、こまめな連絡、準備状況の確認、書類等の添削を行った。実習先によっては事前研修を実施していただき、ご担当者様との顔合わせや説明により、安心して取り組むことができた。出席不足等により準備が進まず、配属できないと判断した学生は単位認定せず再履修することとした。

④配属直前に全体ガイダンスとして「現代社会学部現代社会学科インターンシップのしおり」を配布し、改めて目的や報告・連絡・相談の手段等について説明し、意識を高めた。新型コロナウイルスの感染状況により、実習要件や方法、時期の変更、延期・中止もあり、調整に

表4 キャリア形成Ⅲ 授業内容

2022年度　キャリア形成Ⅲ（必修）　授業計画		
1	社会生活を知る：オリエンテーション（前期）	本講義の狙い、配属アンケート、履修指導
2	就職試験を知る①：社会人基礎力	ベーシックテスト
3	就職試験を知る②：社会人としての力	メンタルヘルス講話・公務員塾
4	実践・インターンシップ（2年生編）①	インターンシップの概要、現状、参加の意味について
5	実践・インターンシップ（2年生編）②	MINTインターンシップの紹介
6	社会人のマナー（身だしなみ）	リクルースタイル（クールビズ）、髪型、持ち物
7	社会人のマナー（コミュニケーション）	言葉遣い、メール、郵便のマナー
8	実践・インターンシップ（2年生編）③	社会人基礎力・自己PR作文
9	実践・インターンシップ（2年生編）④	業界研究　グループワーク
10	実践・インターンシップ（2年生編）	企業研究（インターンシップ先）個人ワーク
11		インターンシップ先について調べる、目標・課題を考える
12		インターンシップ先について調べる、目標・課題を考える
13		申し込みのための書類を作成する
14	まとめ　インターンシップに向けて	申し込みのための書類作成、事前事後学習の説明

苦慮する場面があった。直前や当日の体調不良等による中止・変更・遅刻・欠席もあった。中止・変更により再配属が難しい場合には、イベント等への参加を促しインターンシップとした。インターンシップの期間中には、毎日実施内容や学びを実習日誌に記入し、受け入れ先のご担当者様に提出し、コメントをいただいた。ご担当者様への提出が叶わなかった学生も、日々の経験をともに日誌を作成した。

⑤振り返りでは、報告書の完成および発表を目標として、まず他のインターンシップに参加した学生間で情報交換を行った。他の学生の実施内容や経験を聞くことで、自身と比較して学びを深め、各自報告書を作成した。また、同じインターンシップ先に行った（同時、別日程含む）グループごとに、1グループ5分程度の発表会を2教室に分けて実施した。新型コロナウイルス感染予防のため受け入れ企業・施設の参加は叶わなかったが、録画して後日見ていただくことで報告とした。

キャリア形成Ⅲの評価は、事前準備（授業期間内）の課題提出、インターンシップへの参加（遅刻・欠席は減点）、事後課題の提出、インターンシップ先からの評価を得点化して行った。インターンシップ先からの評価を得られなかった学生は、学科教員によって評価した。

学生の授業評価は、2年次前期終了時のインターンシップの事前研修の際に実施した。総合

評価では4.32と大学平均を少し下回ったが、質問したかどうか、質問しやすい環境だったかの2項目では、大学平均を上回った。グループ、個別でのワークや書類作成・添削などの課題が多く、担当教員とやりとりする機会が多かったことが影響していると考えられる。

【キャリア形成Ⅳ】2年後期 必修

キャリア形成Ⅳは、キャリア形成Ⅲの事後研修後の11月から開始した。①企業が求める力（一般常識テスト体験）、②社会人の講話、③業界・企業研究（企業研究会参加）を行った。

①企業が求める力は、一般常識・SPI等の筆記テストを参考書等から抜粋して作成し、制限時間を設けて行った。近年、推薦入試での入学者が増加し、大学においても国語、英語、数学、社会、理科などの一般的な問題に対峙する機会から離れているため、解答方法を忘れている学生もいた。公務員試験はもちろん、企業においても筆記試験を課すところは多く、継続的な対策が必要と考えられる。

②社会人の講話は、業界・企業研究会に向けて、具体的なイメージを掴むきっかけとして位置付けた。社会福祉法人青葉福祉会の力丸久敏氏（OB入社13年目）は、福祉施設等における事業内容や求められる力、やりがいについてお話をいただいた。三恵商事株式会社の大浦学氏

表5 キャリア形成Ⅳ 授業内容

2022年度キャリア形成Ⅳ（必修） 授業計画		
1	社会生活を知る：オリエンテーション（後期）	本講義の狙い、社会を知り、職業を考える（後期）
2	インターンシップの振り返りと活用①	インターンシップの報告書・プレゼンを作成する
3	インターンシップの振り返りと活用②	プレゼンを作成する
4	インターンシップの振り返りと活用③	インターンシップ報告会
5	社会人基礎力・一般常識	社会人として必要な力を理解する
6	業界研究・企業研究	業界・企業・職種について知りたいことを考える
7	業界・企業・職種研究①	社会福祉法人、地域における役割、仕事内容など
8	業界・企業・職種研究②	商社、地元密着、仕事内容など
9	業界・企業・職種研究③	業界のつながり、企業が求める人材
10	業界・企業・職種研究④	利府町 地方自治体の仕事を知る、求める人材
11	業界研究② 業界研究会	複数業界について、ブース（教室）を用意して1ターム30-40分交代で話を聞く
12		
13	業界研究③	業界研究会を振り返り、興味関心を明確にする
14	まとめ 就職活動に向けて	これまでの講義を総括し、3年次に生かす。

(OB 入社 3 年目) は、福祉を専門的に学ぶ中で介護用品等を扱う企業を選択した経緯や事業内容、学生時代の取り組みなどを紹介していただいた。保健福祉学科で福祉を学んだ卒業生でも選択肢はさまざまにあることを知り、学生は自身の興味関心に照らし合わせて考える機会になった。キャリア形成Ⅱにおいても2022年度にOBの講話を導入したが、キャリア形成全体で、どのような卒業生にいつ依頼するか、効果的なタイミングと内容を検討する必要がある。今後の課題である。

また、インターンシップを受け入れていただいた宮城車体株式会社代表取締役の佐藤真路子氏は、企業規模と企業数などの概要、東日本大震災時の具体的な事例に基づいた事業説明、ご本人の体験談など多岐にわたりお話をくださった。学生にはイメージしにくい BtoB に携わる企業、事業内容等について知り、業界・企業を捉える視野が広がる経験となった。

利府町長の熊谷大氏は、利府町の紹介から地域社会に関する多様な視点を提示してくださった。現代社会学科は「地域」や「地元」に関心が高い学生が多い。自身の地元や貢献したい地域について「知る」視点、方法を理解し、学生生活における学びや経験の大切さに気付く機会になった。

③業界・企業研究会は、総合政策学科・保健福祉学科の3年生と合同で実施した。両学科の3年生は就職を見据えた参加となったが、2年生は業界・企業を知る機会として位置付けた。学内に一般企業および福祉系事業所、公務員・団体等合わせて23社をお招きして(一部オンライン)、1回30分を5クール、そのうち2年生は後半2クールに参加した。事前に参加企業一覧を提示し、調べ、質問等を考えて参加したが、各学生の意識等、準備状態によって得るものに差が生じた様子であった。各自の「選ぶ力」を高める3年次のキャリア形成Ⅴにつなげるよう、事後研修を工夫する必要があると考える。

【インターンシップ先企業・施設等との関係】

インターンシップの実習先は、前述のとおり主にキャリアサポートセンターに開拓、事務手

続き、連絡調整を依頼し、全面的に協力を得た。事前には、受け入れ(人数、学年、事業所、時期)、実施方法(概ね対面、一部リモート)、プログラム内容等のすり合わせを行った。実施期間中は前述のとおり、実習日誌を確認していただいた。事後には、受け入れ各企業、施設等のご担当者様から、各学生の社会人基礎力、取り組み態度等について評価をしていただいた。イベント等への参加に振り替えるなど、実施形態によっては評価を得られなかったものもあった。

プログラム内容は、概ねインターンシップ先の企業等にお任せした。主に会社・事業説明、見学・体験、社員との懇談会等であった。課題を与えられて企画・立案、発表する機会をいただいたものもあった。一方で、初めてインターンシップを受け入れる企業等も多く、また低学年(2年生)の受け入れに戸惑われるところもあった。科目としてインターンシップを位置づけている上では、学科としてプログラム内容について検討・議論し、企業等と綿密な打ち合わせをする必要があった。今後の課題である。

表6 インターンシップ関連書類

インターンシップ資料		
時期	書類名	作成者
事前	覚書	企業等と大学
	自己紹介書	学生
	誓約書	学生
	社会人基礎力自己評価(事前)	学生
実習中	実習日誌	学生
事後	社会人基礎力自己評価(事後)	学生
	実習報告書	学生
	実習評価表	企業等

【他科目との関連】

1年次の必修科目のうち「現代文章表現」「現代文章作法」「現代社会基礎演習Ⅰ」、2年次の「現代社会基礎演習Ⅱ」が、本科目との関連が深い。

現代社会基礎演習ではアカデミックスキルを身に付けること、キャリア形成では社会・職業を知ることが目的としている。目的は異なるが両科目は扱う課題や方法などで類似する点も多い。必要なスキルの学習は複数の科目で繰り返

し学び習得することが求められる。一方で、学科としては学科会議等でカリキュラムツリーを確認するなど、科目間の位置づけを明確にして、各回の内容の教示や到達点などを学生に丁寧に説明して運営する必要がある。

文章力を習得する科目は、大学4年間の学びのための基礎力養成を目的とする。繰り返し練習することによって獲得するスキルであり、専門科目におけるレポートの作成等で成果が発揮される。キャリア形成では作文以外にも、各種書類の作成、外部とのメールでの連絡、インターンシップでの言葉遣いなど、言葉を介する表現力が求められる。ある科目での到達が他の科目の学びに影響することを、シラバスやオリエンテーションにおいて丁寧に説明し、学生が主体的に取り組むことができるよう促すことができると考えられる。

【キャリア形成Ⅴ（3年通年）に向けて】

現代社会学科では2年次に社会学専攻と社会福祉学専攻に分かれる。社会の現象や問題について多様に学ぶ社会学専攻では、卒業後の進路も多様で、自ら進路を選択していくことも学びの1つである。社会福祉学専攻は、主に国家資

格の社会福祉士・精神保健福祉士の資格を取得して、専門職として活躍することを目指す。すなわち、就職活動が事実上始まる3年次において、キャリア形成における各専攻の目標や取り組む課題は異なる。1、2年次の学びが各学生の「選ぶ力」につながるよう、学内外の協力を得ながら進める必要があると考える。社会福祉学専攻は国家試験対策を行いながら、専門的な実習科目と連動させて、単に資格＝就職ではなく、各自が専門性を習得して活躍する力を養成する。社会学専攻は学びも将来も選択の自由度が高いが、3年次の夏休みを利用した本格的なインターンシップなど、主体的な活動が求められる。情報提供や情報の活用の仕方など、テクニックを提供しつつ、学生自らが活動できるよう促す。

現代社会学科では他の専門科目担当教員がキャリア形成も担当しているため、キャリア教育に関する知識や方法を持ち合わせていない。キャリアコンサルタントが複数名配置されているキャリアサポートセンターとの連携を強化し、教職一体となって取り組むことで、キャリア教育としての「選ぶ力」の養成と納得できる職業選択を実現して、就職率アップと3年以内離職率低下につなげることができると考える。